

朱基徹の「五つの私の祈願」の説教について

井田 泉

一

日本による朝鮮支配の末期、神社参拝の強制によって多くのキリスト者が苦しみを受けたことが知られている。ほとんどの教会が日本の強圧によって屈服させられたなかで、最後までこれを偶像崇拜として反対し続けた人々がいた。こうして二百余の教会が閉鎖され、二千名を越すキリスト者が投獄され、およそ五十名が殉教した。この人々にとって信仰ということはどのように理解され、また表現されていたのだろうか。その一つの例として、朱基徹牧師の「五つの私の祈願」という説教を紹介する。

朱基徹は一八九七年十一月二十五日、慶尚南道昌原郡熊川（現在、鎮海市）に生れた。彼は日韓併合の年、一九一〇年のクリスマスにキリスト教に入信した。多くの民族指導者を輩出したことで知られる五山学校（注1）を一九一六年に卒業、一九一九年には三・一独立運動に参加、一九二五年に平壤の長老会神学校を卒業し、釜山の草梁教会に赴任した。この年はソウルに朝鮮神宮が設立された年である。後、馬山文昌教会を経て、一九三六年平壤の山亭峴教会の

牧師となった。すでにキリスト教系の学校も神社参拝への参加を強要され、問題が深刻化していた頃である。彼は早くから神社参拝反対運動を展開し、その結果、一九三一年九月、当時属していた慶南老会（注2）では、神社参拝反対決議がなされていた。そのため彼は、当局から危険人物として注視されていたのである。

一九三八年二月、山亭峴教会の新礼拝堂献堂式の数日前、朱基徹は平壤警察署に捕えられた。このため彼は献堂式の司式・説教を行うことができず、人にそれを委ねるしかなかった。約一カ月後に彼は釈放されたが、これは彼の四度に及ぶ拘禁の最初であった。その年の六月、日本基督教会議長富田満は、朝鮮のキリスト教会に対し神社参拝を受け入れるようにとの説得活動を行い、山亭峴教会でもそのための会合が持たれた。朱基徹は厳しく富田を追及した。この時の事情については、富田に同行した日高善一が『福音新報』に載せた「朝鮮続信」の中で次のように記している。

「朱牧師の牧する山亭峴教会堂に赴く。腕をすぐった四老会の論客が集合した懇談会である。李承吉氏を座長に呉文煥氏を通訳として富田議長と記者とは愈々首の座に直る。当教会牧師は前日、警察署の留置場から釈放せられたまゝである。

神社問題である。富田氏は既に政府が国家の儀礼として宗教に非ずと規定する以上、宗教の

対象とすべきものでない事を法令を引用して説いても繰返して質問して来る。最も困惑したことは内地に於て神道と基督教とを結んで、其の神社を宗教と一致せしめた著作が此れら国語を解する牧師たちに由つて熟読せられてゐる事である。記者はそれは少くも日本基督教会の神学者が断じて承認する処のものではないことを繰返し答弁した。国語は我らの英語同様、話せなくとも読むには不自由ではないと見えて朱牧師の如きは通訳を介して、じり／＼と論究して来る。

富田氏は『諸君の殉教的精神は立派だが何時日本政府は基督教を棄て、神道に改宗せよと迫ったか、その実を示して貰ひたい。国家は国家の祭祀を国民としての諸君に要求したに過ぎない。警官が個人の宗教思想を以て諸君に迫つたと言ふが、国家は斯ることを承認してはゐない。基督教が禁圧せらるゝときにのみ我らは殉教すべきである。明治大帝が万代に及ぶ大御心を以て世界に類なき宗教の自由を賦与せられたものを漫りに遮るは冒瀆に値する。民間学者は勝手なことを言ふ。それを一々氣に留めては諸君の方向を誤る』と論せば、今度は基督教側の著者を指名して其の所論を引用し再び論じて来る。……深更一時過ぎに及ぶけれども、一同は少しも倦まない。朝鮮の教職には死活の問題なのである。単に一身の安危のみならず、牧する會員の安危に係はる一大問題だからである。議は遂に夜を徹して行はれたことを聞いた」。〔注

このような日本のキリスト教会指導者による神社参拝説得活動は、日本政府と総督府の方針に副うものであり、そこには当局の様々な協力があつたようである（注4）。この山亭峴教会における会合に対しても警察の関与があつたことが、同じ記事から知られる。

「警察は場内には僅かに二名の角袖を派遣しただけであつたが、議論沸騰し、殺気立つて形勢不穏と認め、窓の外側に雲集した群衆の中に多くの角袖を配置して我らを遠巻きに保護したことを後に聞知した」（注5）。

「朝鮮続信」は翌七月一日の朝について次のように記す。

「午前九時には二十余名の教職が詰め掛けた。昨夜の連続で、最も強硬な一派である。だが微笑しつゝ昨夜の・・・寧ろ今晩の・・・無礼を陳謝して談論を進められる。ホテルのパラーだけに何れも甚だ穏便である。一夜の発散で、既に昂奮も緩和した」。

結果は何れも満足して『神社は宗教に非ず』と理解するを得た」（注6）。

この説得工作の結果について、富田らは相当の成果を挙げることができたと考えたようである。次の記述も興味深い。

「愈々帰途に就く。四日午前六時二十分の『のぞみ』で新義州発、平壤に列車が入ると瀬戸警

察部長は両課長を帯同して我らを迎へられ、其の後の形勢が全く一変して四老会の兄弟たちが何れも満足してゐる旨を報告された。我らは使命が空しくならず朝鮮三十五万の兄弟たちの安危に係る問題に曙光を得、兄弟たちが宗教外の儀典に対する心情の漸次に理解されて行くことを深く喜んだ」（注7）。

確かに当局の硬軟両面の工作は実を結びつつあった。しかし朱基徹らの、信仰の眞実を貫くうとする生命を賭した戦いも、着実に準備されていたのである。

八月、朱基徹は再び逮捕された。その間に開かれた朝鮮イエス教長老会第二十七回総会は、警察の監視と威嚇の中で神社参拝を決議した。総会記録には次のように記されている（注8）。

「平壤、平西、安州の三老会連合代表朴應律氏の神社参拝決議及び声明書發布の提案の件は、採択可決された。

声 明 書

我等は、神社は宗教に非ず、基督教の教理に違反せざる本意を理解し、神社参拝が愛国的国家儀式なることを理解す。よつてここに神社参拝を率先励行し、進んで国民精神総動員に参加し、非常時局下にあつて銃後皇国臣民として赤誠を尽さんことを期す。
右声明す。

昭和十三年九月十日

朝鮮イエス教長老会総会長 洪澤麒

副会長（役員代表）及び各老会長（会員代表）が本總會を代表して即時神社参拝を實行することを可決し、同十二時、李仁植が祈禱して会長が停会とする」。

翌一九三九年二月、朱基徹は約半年ぶりに釈放された。その最初の主日礼拝で語られたのが「五つの私の祈願」の説教である。

一一

「五つの私の祈願」は、閔庚培による評伝『殉教者 朱基徹牧師』（大韓基督教出版社、一九八五）の二七五―二八二頁に収められている。この説教は、当時山亭峴教会の青年会長であった劉基善が聞いて暗誦していたものを、朱基徹と関わりの深かった金麟瑞牧師が三日間の断食祈禱の後に整理したものという。この後にも何度か説教があつたが、内容においてこれが最後の説教とされる（注9）。

当日、山亭峴教会礼拝堂は立錐の余地もなかったという。平壤の三つの警察署から刑事が監

視のために来ていた。説教前に讃頌歌（神はわがやぐら）（注10）が歌われ、続いてマタイによる福音書第五章一一―一二節およびローマ人への手紙第八章一八、三一―三九節が朗読された（注11）。以下はこの説教の全訳である。なお（註・）は原注をそのまま訳したものである。

五つの私の祈願

最後の遺言説教

朱 基 徹

私は彼らの手によって何度目か逮捕され、この度は長い囚われの身となっていました。この山亭岨の講壇に再び立つこととなりました。神様の恵みを感謝しつつ、私のために祈りつつ待っていてくださった教友の皆さんの前で、再び説教しようとしておりますが、感慨無量です。といって特別違った説教ではなく、囚われのうちにあっていつも祈っていた五つの題目、すなわち「五つの私の祈願」という題でお話ししようと思います。

(一) 死の権勢に打ち勝たせてください

私は今まさに、死に直面しています。私の命を奪おうとする黒い手は、時々刻々と迫っています。死に直面した私は、「死の権勢に打ち勝たせてください」と祈らないわけにはいきません。およそ命あるすべてのものは皆、死を前にして嘆息し、およそ息をする、命を持った人間は皆、死の前でおののき悲しみます。死の権勢は、悪魔が人を脅かす最大の武器であろうかと思えます。死が恐ろしくて義を捨て、死を免れようとして信仰を捨てた人がどれほど多いことでしょうか。主の第一の使徒ペテロも死が恐ろしくて、カヤパの法廷でイエスを否認し、女中の前でも彼を知らないと言ったのです。だれがあえて死が恐ろしくないと壮語することができますでしょうか。

アダムとエバが罪を犯して以来、人は皆死にます。帝王、将帥、宰相、才子、佳人も皆死に、聖賢、君子、偉人、傑士もすべて北邙山（注12）へ行きました。罪なくして無念の死を遂げる弱き者もかわいそうですし、愛する妻を置いて死ぬ人、不憫な子を置いて逝く母親のような悲惨な死も数しれません。

肺結核患者として療養院に臥せるのではなく、イエスの僕として監獄に囚われるのは、どれほど大きな恵みでしょうか。自動車に轢かれて死ぬ死もありますが、イエスの御名によって死刑場に出ていくのは、キリスト者の最大の祝福であります。主のために十回、百回死ぬのはよいしかし、主を捨てて百年、千年生きるといって、それが一体何の長命でしょうか！ ああ！主よ！ この命を惜しんで主を辱めることがないようにしてください。このからだが潰れて粉となろうと、主の戒めを守らせてください。

主は私のために十字架にかかられました。頭にはいばらの冠、両手両足は釘に裂かれて、最後の血の一滴まで流されました。主が私のために死なれたのに、私がどうして死を恐れて主を知らないふりができるでしょうか。ただ一死覚悟があるのみです（註・「一死覚悟」は朱牧師の標語）。

十字架に死なれ、墓の中から三日目に復活された主、死の権勢に打ち勝たれたイエスよ！私も復活を信じて、死の権勢を私の足の下に踏みまじらせてください。「なんじの刺はいずこにかある」。我は復活したまいしイエスを信じて、我も復活せん。アーメン、ハレルヤ！（註・朱牧師が激しい怒気を発して右足で講壇をドンと踏み鳴らして立ち、満堂の聴衆を見回したとき、死の権勢はその足の下に崩れるかのようにであった。）

私の愛する教友の皆さん、キリストの人は、生きてもキリスト者らしく生き、死んでもキリスト者らしく死ななければなりません。死を恐れて、イエスに背いてはなりません。草の花のようにしておれて落ちる命を惜しんで地獄に落ちるなら、恐ろしいことではありませんか。一度死んで永遠の天国の幸いを得ることこそ、喜ばしいことではありませんか。この朱牧師が死ぬからといって悲しまないでください。私はわが主のほかに、別の神の前にひざを屈しては、生きる事ができません。汚れて生きるよりはむしろ死んで、死んで主に対する貞節を守ろうと思えます。主に従って、わが主に従って死ぬことは、私の祈り、私の願いです。私には一死覚悟があるのみです。

松は死ぬ前に切ってこそまさに青く、百合はしおれる前に落ちてこそ香りを放ちます。洗礼者ヨハネは三十三歳、ステパノは青年の熱くたぎる血を注ぎました。このからだも、しおれる前に主の祭壇に供え物とならんことを。

(二) 長い苦難に耐えさせてください

一度だけ受ける苦難は打ち勝つことができますけれども、長く続く苦難は耐えがたいもので

す。刀で切り、火で焼く刑罰であっても、一度二度で死ぬのであれば、それでも耐えることができるでしょう。しかしひと月、ふた月、一年、十年と続く苦難は、耐えることが困難です。

それも絶対に免れ得ない刑罰であるなら、仕方なくそれに服するしかありませんが、一歩だけ譲ればその恐ろしい苦痛を免じ、かえって褒美を与えられると言われると、多くの人々が乗せられてしまいます。言葉たった一言妥協すれば生かしてやる、と言われると、勇敢な信者も負けてしまいます。いわんや私のように弱い弱卒が、どうして長期間の苦難を耐え忍ぶことができるでしょうか。ただ主に頼るばかりです。

そのゆえにイエスは「最後まで耐え忍ぶ者は救われる」（マタイ二四・一三）と、繰り返して求められました。主も十字架に直面されて、その受けたもうべき苦難に臨んで、ゲッセマネの園で血の汗を流して祈られ、あの激しい苦痛に打ち勝たれました。両手両足が釘に裂かれたとき、その痛みはいかばかりであったでしょうか！ 私と皆さんの罪、億万の罪人の罪の重荷を代って負われたとき、その苦しみはあまりに重く、「エリ、エリ、ラマ、サバクタニ」と叫ばれました。その苦しみの声に宇宙も耐えることができず、太陽は光を失い、その苦しみの血のしつたりを地も耐えることができず、地軸が揺れ動き、地震が起こったのであります。

わが主イエスが、私のためにこのように苦しみに耐えられたのに、私が受ける苦しみが何で

でしょうか。「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである」（ヘブル一・二・二）。ゆえに「初めは私たちが十字架を負うけれども、終りには主の十字架が私たちを負ってくださいます」（註・この言葉は朱牧師が体験された遺言）。十字架！十字架！わが主の十字架のみを仰いで進んで行きます。

わが愛する教友の皆さん！「今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない」（ローマ八・一八）。今受ける苦しみは長くて七年であり、将来受ける栄光は千年、万年、永遠無窮であります。今受ける苦難は、死ぬべきからだが死ぬだけであり、将来受ける栄光は、イエスの復活されたからだと等しく永生不死のからだであり、永遠の栄えのからだです。

長く耐え忍んで、主が現れるのを待ち望みなさい（ヤコブ五・七）。

苦難の瞑想（朱牧師の筆跡により伝えられた言葉。李スンギョン牧師による。） 主のために受ける苦難を私が今避けたなら、この次に私はどんな顔で主に対することができようか。

主のために今こうむる囚獄を私が避けたなら、この次に主が「おまえは私の名と平安と喜び

をすべて受けて楽しんでだが、苦しみの杯はどうしてきたか」と尋ねられたら、私は何と言って答えようか！

主のために来る十字架を私が今避けたとすれば、この次に主が「おまえは私が与えた唯一の遺産である苦しみの十字架をどうしてきたか」と尋ねられたら、私は何と言って答えようか。

(三) 老母と妻子と教友を主に委ねます

私には八十を越えた母があり、病気の妻があり、幼い息子たちがいます(注13)。人の子としての義務もこの上なく重く、人の夫、人の父となった責任も重いものです。

1. 子を大切に思わぬ父母がどこにあり、父母を考えない子がどこにいるでしょうか。私の母が私を産んで、大事に大事に育て教えてくださいました恩恵は泰山のように高い。母を養うこともできず、捕えられて行く不孝者の身の上、母のことを思うといっそう切なるものがあります。母が金枝玉葉のように育ててくださったこのからだだが、他人に足蹴にされ、鞭打たれて傷つくとき、私の母の胸はどれほど痛むことでしょうか！ 春風秋雨、雨風が獄の窓に吹きつけるとき、静かな夜、月の光が鉄窓に差し込むとき、母のことが切に思われて、涙を流して祈りまし

た。母を養うのだからといって、神の戒めを犯すこともできません。

主が十字架にかかられたとき、ご自分の痛みも忘れて、十字架の下でいたく悲しまれる母上を、弟子のヨハネに委ねられた主・その思いはどうであつたでしょうか！ 十字架の下で、胸を打って悲しまれる聖母マリヤの、その胸の痛みはどうであつたでしょうか。ああ！ ご自分の母をヨハネに委ねられた主に、わが母も委ねます。親不孝なこの子の孝養より、全能なる主にわが母を委ねて、私は主のみ跡に従つてまいります。弱き私を捕えてください。愛するわが母を、八十を越えた老いたわが母を、慈悲深い主に委ねます。

2. 夫が妻を愛し、妻が夫を慕うのは、人として自然の情であります。私の妻は病弱で、一生を私に捧げてくれたのに、私は夫としての義務を果すことができません。病弱な妻を置き去りにして捕えられて行く、この私の心はまた痛切です。

ああ！ 主が、ご自分の新婦となつた幼い教会を後に置いてゴルゴタに行かれる思いは、どのようなものだったでしょうか。病気のわが妻も主に委ねて、不肖このわがからだは主の足跡！ 主の涙の跡に従つてまいります。弱き私を捕えてください。

3. この世に自分の子の世話をしない者がどこにあり、自分の父に頼らない子がどこにいるでしょうか。私にも四人の息子があり、幼い者もおります。父として子どもを教え育てる義務

を果せず、泣く幼い者を後に残して捕えられて行く心、またその悲しみは限りがありません。

父が国の逆賊として捕えられて死ねば、その子どもらはどこでどのようにして生きることが出来るでしょうか。獣も自分の子を愛するのに、幼い子を振り捨てて死の道へと発たねばならないこの私の心は、あまりに悲惨です。

主が十字架を負われる前の夜、自分の子どものような弟子たちを前に集めて、励まし慰められた御言葉、その一言が涙のにじんだ御言葉であり、教え諭される一言一言が血のたぎる声でありました。幼い子どものような弱い弟子たちを後に置いて十字架にかかれる主の心は、どのようにであつたでしょうか！ 弱い弟子たちを後に残してゴルゴタに向かわれた主に、わが子を委ねます。すでになくなった幼い者を、主の懐に委ねます。

4. 私には、主が委ねられた羊の群れ、私の愛する教友があります。しかし私は、わが羊の群れを後に置いて、再び戻ってくることでできない道に出発しなければなりません。険しい世相、悪しき世に、狼の群れの中に、わが羊たちを置いて行かなくてはなりません。委ねます。わが羊たちを、大牧者であるイエス様のみ手に委ねまつります。

私の母も主に委ねます。私の病気の妻も主のみ手に委ねるのが、この無力な者の助けよりも良いと知っています。私の幼い子どもたちを慈悲深い主の懐に委ねるのが、ふがない父の手

で育てるよりも幸いであると信じます。私の羊の群れも、善き牧者である主に委ねます。病み、傷ついた者を主が包んでくださり、道を失って迷う者を手ずから導いてくださり、落胆した者、罪を犯した者を、主の貴い血によってゆるしてくださいますように。悪しく険しい世に羊の群れを置いて行くのは、私の心にはとても耐えられないことでもあります。

私の老いた母と、私の病める妻を主に委ね、私の幼い子どもたちと私の愛する羊の群れを、慈悲深い主に委ねます。そして私は最後に、この山亭峴のこの講壇を去らなければなりません。主に従って、主に従って、主の血の跡に従って行こうと思えます。（註・ここに至って、朱牧師の声も悲愴であり、その目からは涙がこぼれた。満堂の教友たちは皆、涙で聖書を濡らして啜り泣いた。刑事たちの毒蛇のような目にも涙がにじんだ。）

わが愛する教友の皆さん、私は、わが母、わが妻、わが子どもたちを皆さんに負わせる考えはありません。ただ全能の神に委ねます。皆さん！人は、自分のからだの苦痛は耐え忍ぶことができないけれども、父母と妻子を思って、鉄石のような心も変節する場合があります。幼い子どもの泣く声に、殉教の道から引き返した信者も数知れません。人間の、からまりからまった人情の縄よ、私を縛りつけるな。主に従い行く私を縛りつけるな。父母や妻子をイエスよりさらに愛する者は、イエスにふさわしくありません。

(四) 義に生き、義に死なせてください

人がこの世に生れては、人として当然行ふべき義があります。国の臣民となつては忠節の義があり、女と生れては貞節の義があり、キリスト者となつてはキリスト者としての義があります。

ゆえに諸葛孔明は、崩れゆく漢の国を支えて五丈原に倒れるまで、鞠躬尽瘁、死して後已む、死ぬまで力を注ぎました。まして私たちは、キリストのためにその教会とその義を固守して、鞠躬尽瘁、死して後已む、死ぬまで忠誠を尽さなければなりません。

伯夷、叔斉の兄弟は、殷の臣民として周の国に生きることあたわず、首陽山に隠れ、西山のわらびを摘んで食べ、飢えて死にしましたが、百世に清風が吹いています。鄭夢周(注14)は、滅びゆく高麗のために善竹橋に血を注ぎ、そこには竹が生えたというが、その節義と気概や竹よりも青青蒼蒼さらに青し。

この身が 死んで 死んで

百回　また　死んで

白骨が　塵と土になり

魂が　あろうと　なかりうと

君への　一片丹心

変ることが　あろうか　（注15）

これは、わが先人たちが国を愛した忠義大節です。人の国に対する義がこのようであれば、いわんや私たちはキリストものとなって、主に対する一片丹心を変えることができようか！ シヤデラク、メシヤク、アベデネゴは、信仰の大義を固守して燃え盛る炉にも飛び込み、ダニエルはイスラエルの精神を胸に抱いて獅子の洞窟の中にも入って行きました。イエスを愛する者に燃え盛る炉が何か！ イエスを愛する者に獅子の洞窟が何か！ 何が恐ろしいものか！ ステパノは石に撃たれて死に、ペテロは十字架に逆さまにかけられました。

百済の都彌夫人（注16）は、蓋婁王（注17）の脅迫と富貴の誘惑を退けて、両目をえぐられた夫、都彌を尋ねて一葉片舟、小舟に乗って万頃滄波、西の海に浮かび、黄州の村の墓の下で一生涯をその夫に仕えました。これは、われらが祖先の娘たちが貞節を守った血の涙であ

ります。しかるに今日、私たちがキリストの新婦となつて、主に対する貞節を変えることができようか！

紀元二〇〇年、カルタゴのペルペトウアは二十二、三歳の芳年で、乳飲み子と老いた父の泣く声を後にして刑場に出、恐ろしい牛の角に突かれて死にました。千古の烈女ペルペトウアは、主の御国で勝利の讚美歌を歌うことでしょう。

できません。できません。キリストの新婦は、異なる神に屈して貞節を破ることはできません。ん。

この身は幼くしてイエスのうちに育ち、イエスに身を捧げると十回、百回、誓いました。イエスの御名によって糧を得て食し、栄光を受けました。それなのに神の戒めが破られ、イエスの御名が地に落ちた今日、この身がどうしていたずらに生を盗んで難を逃れることができようか！

ああ！ わが主イエスの御名は地に落ちたり。平壤よ！ 平壤よ！ 礼儀東邦のわがエルサレムよ！（注18） 栄光は汝を去れり。牡丹峯よ（注19）！ 慟哭せよ。大同江よ（注20）、百代千代に流れ行きて我とともに泣こう！ 捧げます。捧げます。この命、主に捧げます。剣が私を待つのか。私はその剣に向かって出て行こう。「だれが、キリストの愛か

らわたしたちを離れさせるのか。患難か、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危難か、剣か」
(ローマ八・三五)。死んで、死んで、十回、百回また死んでも、主に対する大義貞節を変え
るまい。十字架、十字架、主が負われた十字架の前に、この身を捧げます。草におりる露のよ
うな私たちの人生、生きて何日生きられようか。人生は短く、義は永遠であります。

わが愛する教友の皆さん、義に死んで、義に生きましよう。義を捨てて、さらにイエスに対
する義を捨てて生きるのは、犬、畜生の生にも及びません。皆さん、イエスは生きておられま
す。イエスに死に、イエスに生きましよう。(註・朱牧師が義を語るとき、顔は赤らみ、目か
らは火が散った。その声は激しく悲壮で、礼拝堂を揺るがした。満堂の礼拝者たちは啜り泣い
た。朱牧師が感激に溢れて手を上げ、足で床を踏み鳴らしながら、次に讚美歌一九六番「この
世は険しくわれは弱けれど」を力一杯合唱した。)

(五) わが魂を主に委ねます・

ああ！ 主イエスよ、わが魂を主に委ねます。十字架を固く保って倒れるとき、わが魂を受
けてください。獄中であれ、死刑場であれ、わが命が絶えるとき、わが魂を受けてください。

父の家は私の家、父の国はわが故郷です。汚れた地を踏んできた私の足を洗い清めて、私を天国の黄金の道を歩む者としてください。罪の世で苦しんできた私を清めて、栄光のみに立たせてください。わが魂を主に委ねます。アーメン

三

この説教に現われた朱基徹について、「連帯」（必ずしも適切な言葉ではないかもしれないが）という観点から三つの特徴を挙げる事ができるであろう。

第一は、イエスとの連帯である。神社参拝の強制とそれに対する抵抗の中で、彼は苦しみを負いつつイエスに従おうとした。それは「揺るぎない信仰」といったものではない。説教から窺われるように、彼は生命を脅かす迫害を恐れ、イエスを裏切る危険を感じていた。だからこそ彼はいつそう激しく神に訴え、神にすがるほかなかったのである。恐れつつ、苦しみつつ、彼は自分と一切を神に委ねようとした。会衆への語りかけはいつしかほとぼしる祈りとなり、祈りはまた兄弟姉妹と自分自身への切なる語りかけとなった。彼は苦難を負うことを通して、苦難のキリストと結び付けられていった。

第二は、民族との連帯である。日本の「皇民化政策」によって、朝鮮の歴史・文化・言語が奪われ、民族の誇りと魂が抹殺されようとしていたとき、彼は民族の先人たちの例に訴えて神への忠実を促した。それは同時に、民族の自己同一性を失いつつある同胞への、覚醒の呼びかけでもあった。「わが主イエスの御名は地に落ちたり。平壤よ！ 平壤よ！……」に、民族意識と一体となった彼の信仰の叫びを聞くことができる。

第三は、教会の信徒（会衆）との連帯である。獄中であつて彼は信徒のために祈り続け、信徒もまた彼のために切に祈ってきた。共に苦難を負う中で、両者は互いに支えあつてきた。説教本文の中に註の形で挟み込まれた会衆の様子は、それを明らかに語っている。

これらの連帯は、いずれも日本の植民地支配、とりわけ神社参拝強要とそれに対する抵抗による苦難を負うことによつて生れたものである。すでに事実としてあつたこの連帯は、この時ここで語られる説教においていっそう顕在化し、またこの説教によつてさらに新しく連帯が生み出された、と言つてよいだろう。

朱基徹において、偶像（天皇とその祖先）崇拜を拒否して第一戒を守り抜くことと、日本帝國主義に抵抗して民族の魂を固守することとは、一つであつた。

とところでこの説教を実際に聞いた一人である呉在吉は、説教の骨子を次のように記憶した。

「十字架を負うことは人にはできないことだ。しかし人が十字架を負おうとするなら、十字架が人を負って行く。そしてカルバリの山の上まで行くことができるのだ」(注21)。

朱基徹牧師と共に神社参拝に反対し続けた山亭峴教会は一九四〇年三月に至って閉鎖された。その年の九月、彼は四度目に逮捕された。一九四一年三月二十三日、平壤老会は朱基徹の牧師職を罷免した。同年十一月、平壤倉洞教会で開かれた第三十回総会における平壤老会の報告には次のような言葉が見える。

「一、感謝すべきこと

1、本老会内一六二教会は主の恵みに より一年間平安に過した。

2、信徒の信仰は以前の通りであって、教会のための献金・伝道により教会は発展した。

四、特別事項。非常時局に当り、本老会の各視察区域内で活動していた宣教師たちに老会から手を引かせることとし、……」(注22)。

一九四四年四月二十一日、朱基徹は拷問の果てに四十六歳の生涯を閉じた。

朱基徹の説教を読み、彼の生涯を思うとき、二つのことを強く考えさせられる。一つは、天
皇制国家日本のなしたあまりにも酷い植民地支配、ということである。彼の生と死から、私た
ちは日本と日本の教会の罪責を厳しく問われる。もう一つは、信仰は生命を賭けるもの、生命
にかかわるものだ、ということである。

朱基徹の生と死と、彼が残した説教は、この地この時代にあって私たちが真に神と人に仕え
ることを促さずにはおかない。

注

(1) 一九〇七年、李昇薫によって平安北道定州五山に設立された学校。一九一九年の三一独立運動では定州地方の拠点となり、総督府から「民族主義の巢窟」として校舎を焼かれた。後に朱基徹を山亭峴教会に招聘する際に中心的役割を果たした・晩植長老は、この学校の校長を務めたことがある。

(2) 長老派教会の行政組織は、総会―老会―堂会となつている。老会は区域内の教会の設立・統合・廃止や牧師・長老等の任職を司どり、堂会からの建議・請願等を処理する。聖公会の教区に当る。慶南は慶尚南道。

(3) 昭和一三年七月二二日『福音新報』第二二二一号（戸村政博編『神社問題とキリスト教』新教出版社、一九七六、三〇三―三〇四頁）。

(4) 同じ「朝鮮続信」には次のような記述がある。「新義州、二日午前七時半、平壤を『ひかり』にて出発、警察部長も駅に見送られ、尚ほ特高課長が同車に乗り込んで道境まで見送られた」。同書三〇五頁。

(5) 同書三〇四頁。

(6) 同書三〇四頁。

(7) 同書三〇五頁。

(8) 『朝鮮耶蘇教長老会總會第二十七回會議録』（昭和十四年二月十七日発行、発行所 郭 填根家）九頁。

(9) 閔庚培『殉教者 朱基徹牧師』大韓基督教出版社、一九八五、二七五頁。

(10) 現在韓国プロテスタント諸教会で広く用いられている讚頌歌（韓国讚頌歌公会編、大韓基督教書会発行、一九八三）の番号では三八四番である。

(11) 閔庚培、前掲書、二二三―二二四頁。

(12) 洛陽の北にある小さい山。漢以来歴代の帝王、貴人、名士の墓が多く造られた。

(13) 朱基徹は一九一七年、安甲守と結婚し、五男（寧震、寧萬、寧默、寧海、光朝）一女（寧真）をもうけた。このうち三男寧默は三歳で病死した。妻、安甲守は一九三三年に病死し、

その二年後、彼は呉貞模と再婚した。この説教当時、長男寧震は一九になつていたが、末子光朝は満七歳に満たなかつた。

(14) 高麗末期の文臣。一三三七―一三九二。

(15) 鄭夢周の丹心歌

(16) 『三國史記』卷第八、列伝第八にある伝説の主人公。『完訳 三國史記』金思燁訳、

六興出版、昭和五六、八二三頁、八二六頁。

(17) 百濟第四代の王。？―一六六。

(18) 平壤を中心とする西北部は、朝鮮全土でキリスト教が最も盛んであった地域で、平壤は「東洋のエルサレム」と呼ばれるほどであった。

(19) 平壤北部にある山。東側は大同江に臨む。景勝地として知られる。

(20) 平壤を貫流する川。全長四二九キロメートル。

(21) 閔庚培、前掲書、二一四頁。

(22) 『朝鮮耶蘇教長老会總會第三十回會議録』（昭和十七年十月三日発行、発行所 趙村昇濟方）八五頁。

(1989. 02. 18)

．．．．．聖公会神学院、．．．．．